

所属	生涯福祉研究科 生涯福祉専攻 修士課程	修了年度	2018年度
氏名	山本 佐季子	指導教員 (主査)	原 孝成

論文題目	通常学級における特別支援教育支援員の活用のあり方 —特別支援教育支援員の現状と課題—
------	---

本文概要

研究目的

本研究は、通常学級における支援員活用の現状を把握し、特別支援教育支援員の現状・課題を検証した上で、支援を必要とする児童生徒に対して、適切な支援を行うためには、どのような事が必要であるかを検証することを目的とする。

研究方法

本研究は、研究を2つに分けることとする。研究1においては、関東圏1都6県200自治体に対して、支援員の配置状況、仕事内容、採用方法、資格要件、研修実施状況等のアンケート調査を行い、各自治体の支援員に対する活用を明らかにし、研究2では、支援員からの聞き取り調査を行い、様々な角度から支援員の現状を検証する。

考察・結論

特別支援教育により、支援を必要としている児童生徒に対して支援を行う、特別支援教育支援員の重要性は、着実に確立されてきていると思われた。しかし、そのような状況ではあるが、支援員の有効な活用や課題の解消について、今後も考えていく必要があると思われた。早期の支援員制度の確立・特別支援教育支援員の有効な活用、財政・人材確保が、緊急な課題であると思われた。今後、支援員活用の体制整備と専門的な職員として基盤作りを考えることが重要であると推察された。財源と優秀な人材の確保は不可欠なものであるが、教育現場・教育委員会等の意識改革が最も重要であり、それらのことが、支援員の業務内容の明確化・支援員の専門職としての認知、最終的には、支援員の質の向上に繋がっていくと推察された。また、教員が、特別支援教育に対する知識を習得し、教育現場での経験を積み上げていくなど、資質向上も重要であると思われた。

また、現場の人間関係は、良好でなければならないと思われた。アンケート調査・先行研究・聞き取り調査において、支援員の人柄が重要であることが推察されたが、そのようなことも、支援を必要とする児童生徒へのより良い支援につながっていくものであると、考えられた。

通常学級において支援を必要とする児童生徒に対しての支援は、自治体・学校現場・支援員が一体となることであり、それぞれの立場から、常に、児童生徒と向き合う事であると推察された。

支援員が、日々の業務の中での、苦悩・不安・困難を解決するためには、以下の3点が考えられた。第一に、教職員との連携・共通認識を持つことであると考えられた。お互いの立場からの、児童生徒への働きかけ・支援が必要であるためと思われた。第二に、教職員が、支援員の業務内容を把握することであるとされた。そのことにより、支援員が迷いを持たずに、児童生徒に対しての支援をすることが出来ると考えられた。第三に、多岐にわたる障害の特性に対する、研修の充実は必須であると推察されたが、支援員が、最も身近にいる教員に当該児童に対しての助言を仰ぐことも重要なことであると考えられた。